

## ○国際教育部門

・国際教育部門の令和2年度の活動記録は以下のとおりである。

### 【部門の活動】

月	活動記録
4月	4月22日ー交換留学継続生のためのガイダンス 外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス 4月24日ー工学部の先輩留学生との交流会【つながろうプロジェクト第1弾】
5月	5月17日ーいっしょに作って食べよう！【つながろうプロジェクト第2弾】 5月18日～6月5日ーアメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（人間とコミュニケーション：Japanese Pop Culture A）
6月	6月8日ーオンライン海外留学説明会（6月8日よりオンデマンド配信） 6月15日～8月3日ーアメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（日本語教授法II） 6月26日ーZOOMで映画鑑賞会&ディスカッション【つながろうプロジェクト第3弾】 6月29日・7月1日・3日ーオンライン海外留学サロン【つながろうプロジェクト第4弾】
7月	7月11日ー茨城大学元留学生のためのオンライン親睦会【つながろうプロジェクト第5弾】 7月12日・18日・19日ー日本の祭りで踊ろう！【つながろうプロジェクト第6弾】 7月29日ーアメリカ・ペンシルバニア州立大学との授業交流（人間とコミュニケーション：Japanese Pop Culture B）
8月	8月上旬ーリモート水戸黄門まつりへの参加 8月17日～25日ーブルネイ・ダルサラーム短期語学・文化研修（オンライン） 【資料2-D-1-01】 8月24日～9月4日ー韓国語研修（オンライン） 【資料2-D-1-02】
9月	9月（メール会議）ー茨城県高等教育機関留学生関係担当者連絡会 9月24日ー日本語研修コースオリエンテーション 9月26日ーJALT Study Abroad SIG Conference 2020 9月30日ーTOEFL-ITPの開催
10月	10月1日～11月30日ーオーストラリア・ニューサウスウェールズ大学との授業交流 10月9日～12月18日ー海外協定校との授業交流（日本語教授法演習） 10月12日～12月7日ーアメリカ・ミシガン州立大学との授業交流（日本語教授法I） 10月20日～2月28日ータンデム学習プロジェクト 10月21日ー水戸市防災課と地域住民との防災訓練 10月28日ー交換留学説明会・報告会

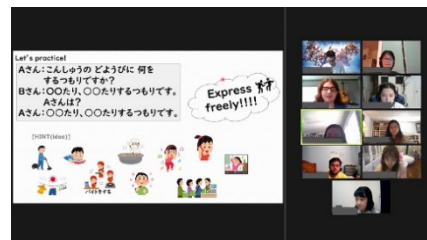
	10月31日ーオンライン坐禅ワークショップ【つながろうプロジェクト第7弾】
11月	<p>11月（メール会議）ー茨城地域留学生交流推進協議会</p> <p>11月4日ー春季オンライン短期海外研修説明会・報告会</p> <p>11月9日ー地域の国際化を考える円卓会議（阿見町との地域連携事業）</p> <p>11月13日ーオンライン国際交流パーティー【つながろうプロジェクト第9弾】</p> <p>11月16日～27日ー海外留学個別相談&amp;オンライン留学相談窓口</p> <p>11月18日・20日ーアメリカ・ウィスコンシン大学スペリオル校との授業交流（Studies in Particular Field）</p> <p>11月30日ーiOP チュートリアル「人権問題について考えよう」成果発表会</p> <p>11月30日ー日本語研修コースレベル4（総合）データセッション</p>
12月	<p>12月12日ー折り紙ワークショップ【つながろうプロジェクト第8弾】</p> <p>12月19日ー学生国際会議</p>
1月	<p>1月13日ーTOEFL-ITPの開催</p> <p>1月13日～15日ーベトナム・ハイフォン大学との授業交流（日本語教授法I）</p> <p>1月21日ー日本語教育プログラムガイダンス</p> <p>1月29日ー日本語研修コースレベル4（総合）データセッション</p> <p>1月13日～3月3日ー阿見町国際交流協会「日本語教育ボランティア養成講座」への講師派遣</p>
2月	<p>2月1日ー悩みをシェアして，ゲームで交流しましょう</p> <p>2月15日～3月5日ーオーストラリアオンライン短期語学研修（オンライン） 【資料2-D-1-03】</p> <p>2月5日～26日ー公開講座「多文化理解パートナー育成講座ー茨城の多文化共生を考える」（オンデマンド配信）</p> <p>2月15日～26日ー韓国語短期海外研修（オンライン） 【資料2-D-1-04】</p>
3月	<p>3月1日～9日ーベトナム日本語教育短期海外研修（オンライン） 【資料2-D-1-05】</p> <p>3月8日～26日ースペイン語短期海外研修（オンライン） 【資料2-D-1-06】</p> <p>3月8日～19日ーマレーシア短期英語研修（オンライン） 【資料2-D-1-07】</p> <p>3月9日ーベトナム・日本語教育短期海外研修（オンライン） 参加者報告会</p> <p>3月13日ー茨城大学リカレント教育プログラム「2020年度多文化理解パートナー育成講座ふりかえりセッション」</p> <p>3月17日ー国際交流のためのオンラインふろしきワークショップ【つながろうプロジェクト第10弾】</p> <p>3月19日ー新交換留学生向けオリエンテーション</p> <p>3月21日ーコロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～ シンポジウム</p>

## 【特色ある業務】

### 1. オンラインを駆使した海外協定校との授業交流活動の実施

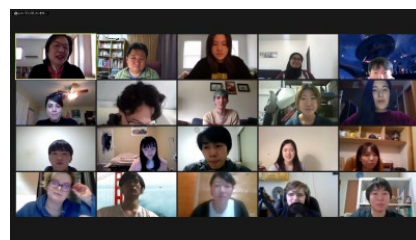
#### ① 「日本語教授法 II」（2020 年度前学期）

- 茨城大学の学生 25 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 23 名がオンラインによる以下の交流活動を行った。
  - 茨城大学の学生が Zoom で ペンシルバニア州立大学の日本語授業に参加し、授業観察を行った。
  - 茨城大学の学生がペンシルバニア州立大学の日本語授業で 15 分間の応用・発展ドリルの模擬授業を行った。
  - 茨城大学の学生とペンシルバニア州立大学の学生が 4 名程度のグループを作り、授業外で週 1 回程度交流した。



#### ② 「Japanese Pop Culture A」（2020 年度第 1 クォーター）

- 茨城大学の学生 35 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 11 名が 3 週間（5 月 18 日～6 月 5 日）にわたって毎晩オンラインによる交流を行った。交流では、日本のポップカルチャーについて日本語で約 30 分間話し合った。



#### ③ 「Japanese Pop Culture B」（2020 年度第 2 クォーター）

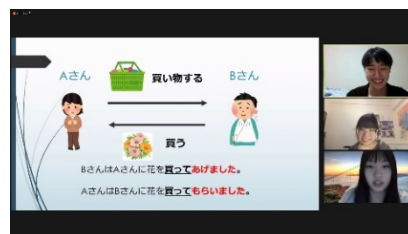
- 茨城大学の学生 37 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 24 名がオンラインによる交流を 7 月 29 日（水）の夜に 1 時間半行った。交流会に向けて、茨城大学の学生がオンラインでできる交流活動を企画し、実践した。

#### ④ 「英語コミュニケーション」（2020 年度第 2 クォーター）

- 茨城大学の学生 19 名とアメリカ・ペンシルバニア州立大学の学生 24 名が計 8 回各 30 分間の英語による交流を行った。

#### ⑤ 「日本語教授法 I」（2020 年度後学期）

- 茨城大学の学生 16 名とアメリカ・ミシガン州立大学の学生 30 名と計 6 回各 60 分間の日本語による交流を行った。交流では、茨城大学の学生が日本語によるコミュニケーション活動を企画し、実践した。
- 茨城大学の学生 16 名とベトナム・ハイフォン大学の学生 25 名と計 6 回各 90 分間の日本語による交流を行った。交流では、茨城大学の学生が日本語によるコミュニケーション活動を企画し、実践した。



#### ⑥ 「日本語教授法演習」（2020 年度後学期）

- 茨城大学の学生 14 名がウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ）、ペンシルバニア州立大学（アメリカ）、アイオワ大学（アメリカ）、ニューカッスル大学（イギ

リス），インドネシア教育大学（インドネシア），マレーシア科学大学（マレーシア），仁済大学（韓国）の日本語授業においてオンラインによる教壇実習を行った。

- ⑦ 「Studies in Particular Field」（2020年度第3クォーター）
  - 茨城大学の学生10名とアメリカ・ウィスコンシン大学スペリオル校の学生9名が日本語・英語による交流会を11月に2回（それぞれ60分間）を行った。交流では、茨城大学の学生がオンラインでできる交流活動を企画・実践した。
- ⑧ 茨城大学工学部の教員が主となり、茨城大学の学生40名とオーストラリア・ニューサウスウェールズ大学の学生40名による約8週間のオンライン交流プロジェクト行われた。

## 2. オンライン短期海外研修の企画及び実施

新型コロナウイルスの感染拡大で学生を海外へ派遣できないなか、国際教育部門ではオンラインによる短期海外研修の実施を積極的に行った。

- ① 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ブルネイオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイオンライン）」（8月17日～24日）を開講した。本学より19名の学生がブルネイ・ダルサラーム大学の提供する短期語学・文化研修に参加した。



- ② 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（韓国オンライン）」の開講  
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（韓国オンライン）」（8月24日～9月4日及び2月15日から26日）を開講した。本学より計10名（夏季9名，春季1名）の学生が韓国・インジェ大学の提供する短期韓国語研修に参加した。
- ③ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（スペインオンライン）」の開講  
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（スペインオンライン）」（3月8日～26日）を開講し，本学より2名の学生がスペイン・アルカラ大学の提供する短期スペイン語研修に参加した。
- ④ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（オーストラリアオンライン）」の開講  
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（オーストラリアオンライン）」（2月15日～3月5日）を開講し，本学より2名の学生がオーストラリア・カーティン大学の提供する短期英語研修に参加した。
- ⑤ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（マレーシアオンライン）」の開講  
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（マレーシアオンライン）」（3月8日～19日）を開講し，本学より6名の学生がマレーシア・マレーシア科学大学の提供する短期英語研修に参加した。
- ⑥ 「短期海外研修Ⅰ・Ⅱ（ベトナムオンライン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（ベトナムオンライン）」（3月1日～9日）を開講し、本学より3名の学生がベトナム・ハイフォン大学の提供する短期研修プログラムに参加した。



#### 【関連イベント報告】

#### ①こんな時だからこそつながろう！ 茨城大学国際交流プロジェクトの企画・運営

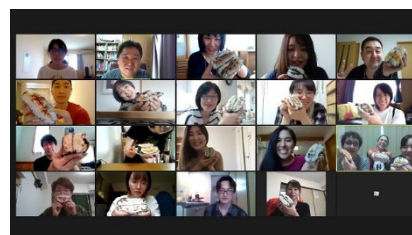
新型コロナウイルスの感染拡大で、国や地域を超えた移動に制限がかかったことから、オンラインによる国際交流活動を企画・運営した。

#### 第1弾：「工学部の先輩留学生との交流会」（4月24日，参加者4名）

工学部の先輩留学生と新入留学生の交流会をオンライン上で行った。教科書の購入方法や工学部での勉強方法などのアドバイスがあり、先輩の「生」の声を聞け、とても役に立っているようだった。

#### 第2弾：「いっしょに作って食べよう！」（5月17日，参加者22名）

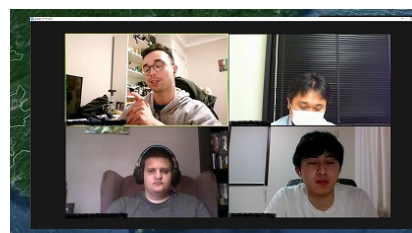
イベントでは、ZOOMをつないで、参加者が各自自宅から「おにぎらず」を作った。そして、作った後は、小グループに分かれて、おしゃべりをしながら、食べた。その後、4月から水戸市のごみ分別が難しくなったこともあり、ごみ分別のクイズ大会を行った。久しぶりに顔を合わせて交流をし、参加者は楽しいひと時を過ごしていた。



#### 第3弾：「ZOOMで映画鑑賞会&ディスカッション」（6月27日，参加者約40名）

##### 【資料2-D-2-01】

イベントでは、まず和歌山県太地町のイルカ漁を題材にしたドキュメンタリー映画『おクジラさま ふたつの正義の物語』を視聴した。映画視聴後は、小グループに分かれてディスカッションを行い、映画に対する理解を深めた。シドニー工科大学（オーストラリア）、ニューカッスル大学（イギリス）、ペンシルバニア州立大学（アメリカ）、ウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ）、モンタナ州立大学（アメリカ）、ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ）、インジェ大学（韓国）からの参加があり、さまざまな観点からディスカッションが行われている姿が印象的だった。





**第4弾：「オンライン海外留学サロン」（6月29日，7月1日，3日，延べ参加人数約60名）**

【資料2-D-2-02】

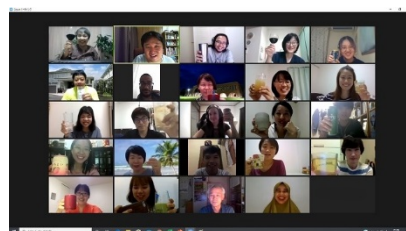
サロンでは、まず国際交流課のスタッフが茨城大学の交換留学制度について説明をした。その後、海外留学担当の教職員や留学経験者が参加者の質問に答えた。



**第5弾：「茨城大学 元留学生のためのオンライン親睦会」7月11日，参加者32名）**

【資料2-D-2-03】

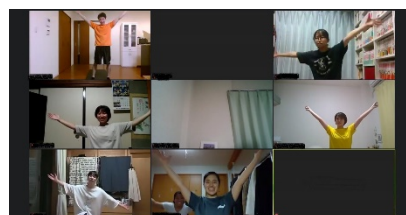
元留学生 16名，元チューター4名，現役留学生1名，現役チューター3名，元教員2名，現教職員6名の合計32名が参加した。それぞれ自分の好きな飲み物・食べ物を持ち寄って，それを楽しみながら，思い出話に花を咲かせた。世界中の茨大生が世代を超えて，また，過去・現在の茨大生がつながっている姿がとても印象的だった。



**第6弾：「日本の夏祭りで踊ろう！」（7月12日，18日，19日，延べ参加人数約30名）**

【資料2-D-2-04】

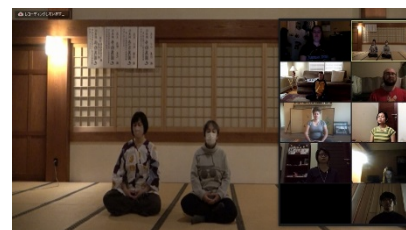
水戸の夏の風物詩「水戸黄門まつり」が「Remote」で開催されることになったことから，茨城大学の留学生・日本人学生・教職員，海外協定校の学生からの参加者を募り，茨城と海外から「Remote 水戸黄門まつり」に参加した。Remote 水戸黄門まつりでは，ダンス動画のコンテストが行われていたことから，ダンスの練習をオンライン上で計3回行い，モンタナ州立大学（アメリカ），シドニー工科大学（オーストラリア），インドネシア教育大学（インドネシア）の学生と一緒に交流を交えながら行った。



**第7弾：「オンライン坐禅ワークショップ」（10月31日，参加者39名）**

【資料2-D-2-05】

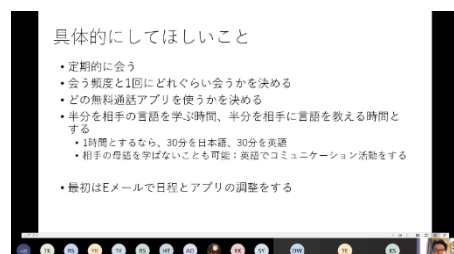
ワークショップでは，水戸市祇園寺の副住職による坐禅の説明，体験を行った。参加者からは「今のご時世，坐禅をして心を落ち着ける機会はとても重要でした」（日本人学生），「COVID-19のなかでもたくさんの新しい日本の文化をオンラインで学ぶことができた」（協定校の学生），「2021年4月から茨城大学に交換留学したら（もしできれば…），祇園寺を訪れたい！」（協定校の学生）など，肯定的な声が聞かれた。ワークショップのあとは，少人数に分かれたグループディスカッションを行い，参加者同士で交流を深めた。



**第8弾：「タンデム学習プロジェクト」（2020年10月～2021年2月，  
参加者72名（茨城大学），97名（協定校））**

【資料 2-D-2-06】

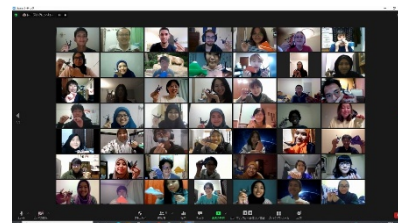
本学の学生72名と協定校の学生97名がペア・グループとなり、2020年10月から2021年2月にかけてウェブ会議システム（SKYPE や ZOOM 等）を用いてタンデム学習を行った。タンデム学習とは、母語の異なる者同士がペアとなり、互いの言語や文化を学びあう学習形態のことである。本プロジェクトでは、定期的に情報交換会を開催し、タンデム学習の進捗状況を確認した。そこでは、タンデム学習についてだけでなく、自身の留学の計画や自身が抱えている留学に関する疑問について話す姿も垣間見られ、コロナ禍においても留学に関する情報交換の場を創出することができた。



**第9弾：「国際交流のためのオンラインおりがみワークショップ」（12月12日，参加者74名）**

【資料 2-D-2-07】

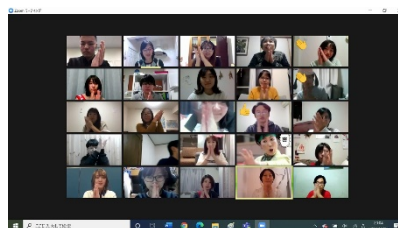
海外からの参加者も事前に折紙を受け取り、ワークショップでは、日本折紙協会の講師の日英両言語による指導の下、ペンギン、富士山、鶴を折った。その後、少人数に分かれたグループディスカッションを行い、参加者同士で交流を深めた。



**第10弾：「オンライン国際交流パーティー」（11月13日，参加者約60名）**

【資料 2-D-2-08】

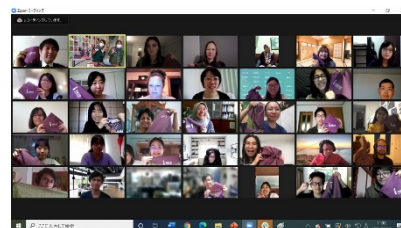
イベントの前に、日本国内在住の参加者は「茨城の味覚セット」を受け取り、茨城大学グローバル教育センターが編集した「お蕎麦のゆで方」のビデオを視聴して、自分達で「そば」や「けんちん汁」を事前に準備して、参加した。そして、準備したそばを堪能しながら、学生スタッフが準備したゲームや活動に参加した。参加者たちが楽しそうにしている姿がとても印象的だった。



第11弾：「国際交流のためのオンラインふろしきワークショップ」（3月17日，参加者約90名）

【資料 2-D-2-09】

参加者には茨城大学のロゴが入った風呂敷をワークショップ前に送付し，ワークショップではそのオリジナル風呂敷を使って，山田繊維株式会社の方の指導の下，風呂敷の使い方を学んだ。今年度最後となった「つながろうプロジェクト」だったが，協定校の学生・教職員，茨城大学の学生約400名が参加申込をする人気のイベントとなった。当日は，各協定校から先着順で参加者を選び，約80名が参加した。参加者からは，「イベントはとても楽しく，講師はとても親切でした。風呂敷の使い方や歴史をたくさん学ぶことができました」などの声が聞かれた。



② 学生国際会議の開催

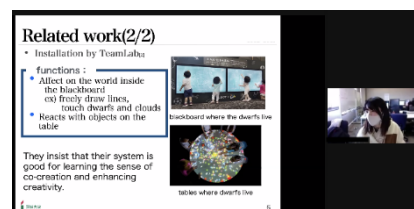
12月19日，第16回茨城学生国際会議をオンライン上にて開催した。本学の学生スタッフが主体となり企画運営を行い，のべ113名の本学の学生・留学生，茨城県内の高校生が参加した。本会議は，グローバルな視点を持ち，国際化が進む社会の中で活躍できる人材の育成を目的とした，学生が主体となり企画・運営を行う学生による学生のための国際シンポジウムである。今年度は，Covid-19感染拡大防止のためオンラインで実施することとし，「どこにいる人でも誰であっても一緒に活動ができればいいな」という思いを込め，「Stand by you ~with online~」というテーマを掲げ，開催した。例年は，茨城学生国際会議という名前のおり県内の学生のための会議としていたが，2020年度はオンラインの利点を活かし，県内の高校・大学のほか，本学の海外協定校にも参加を呼びかけた。例年よりも規模を縮小した形ではあったが，発表者・聴講者合わせて113人の参加があり，多くの国の学生との間で学術発表及び交流会を行うことができた。



【内容】

(1) 研究発表（口頭発表・ポスター発表）

発表者は6つのトピック（「Humanities and Society」「Education」「Science and Engineering」「Agriculture」「Ibaraki」「Student Life」）から一つトピックを選び，口頭またはポスターで研究発表を行う。「Ibaraki」「Student Life」のように，専門的な分野だけでなく地域や自分の体験に関わるトピックも用意し，高校生が参加しやすい環境づくりを行った。



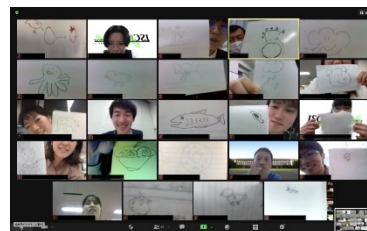
参加者の内訳は，発表者51名，聴講者62名であり，発表者の所属大学及びトピックは下記のとおりである。



		Humanities and Society	Education	Science and Engineering	Agriculture	Ibaraki	Student Life	計
日本	茨城大学	2		22	2			26
	常総学院	1	2	1		1		5
	牛久栄進高校					7		7
インドネシア	ウダヤナ大学	1						1
	ガジャマダ大学			1				1
	ボゴール農科大学			2				2
	Nusa Bangsa University			1				1
フィリピン	デラサール大学	2						2
	フィリピン大学		1					1
中国	武漢科技大学	1		1				2
マレーシア	マレーシア科学大学			1				1
スリランカ	Swinburne University of Technology			1				1
ブラジル	Federal University of Viçosa	1						1
	計	1	0	0	0	0	0	1

## (2) 交流会

学術発表後に、交流会として、自己紹介ゲーム、しりとり、絵しりとりを行った。交流会を通して、学術的な視点とは異なる部分で参加者同士が国際的な交流を深めることができた。



### 【参考】

聴講者出身大学等

- ・イギリス：ニューカッスル大学
- ・ブルネイ：ブルネイ・ダルサラーム大学
- ・フィリピン：デラサール大学、フィリピン大学
- ・インドネシア：ガジャマダ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学、インドネシア教育大学、ウダヤナ大学、Diponegoro University, Ahmad Dahlan University
- ・日本：茨城キリスト教学園高等学校、常総学院、茨城大学
- ・マレーシア：マレーシア科学大学
- ・タイ：カセサート大学

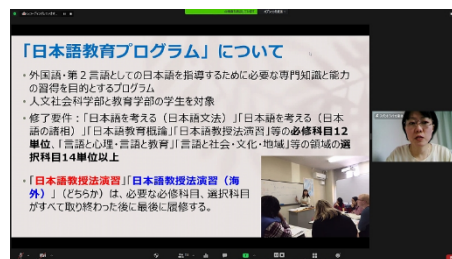
## ③ JALT Study Abroad SIG Conference の開催

9月26日、JALT Study Abroad SIG との共催で『JALT Study Abroad SIG Conference 2020』をオンライン上で行った。Conference は完全オンラインで行われ、本学の学生ボランティアが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、会議室でオンライン配信の補助を行った。80名近くの参加者が集まり、海外留学に関して意見交換が行われた。参加者からは、「アットホームな雰囲気、意見を出しやすい会だった」、「オンラインなりのよさがあった」、「オンラインでも対面と同様の内容を行っていたのが素晴らしいと思った」、「茨城大学のチームワークに感心した」と肯定的な声が聞かれた。

#### ④「コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」シンポジウム

【資料 2-D-3-01】

3月21日、「コロナ禍のグローバル教育を考える～茨城大学の挑戦～」シンポジウムをオンライン上にて行った。第1部は「コロナ禍の日本語教育を考える～海外協定校とのオンライン日本語教育実習を例として～」と題して、2020年度後学期に海外協定校の日本語担当教員と協働で行った日本語教育実習について協定校の担当教員を招いてディスカッションをした。第2部では「コロナ禍のオンライン国際協働学習を考える～海外協定校とのオンライン交流授業を例として～」と題して、2020年度に茨城大学で行われた海外協定校とのオンライン交流活動をそれぞれの担当教員が紹介した。第3部では、ブレイクアウトルーム機能を用いて、コロナ禍の日本語教育実習、コロナ禍の国際協働学習、コロナ禍の海外留学、コロナ禍の学内での学生交流・地域交流についてそれぞれグループに分かれて話し合った。シンポジウムには各回130名近くが参加した。また、本学の協定校であるアイオワ大学（アメリカ）、ウィスコンシン大学スペリオル校（アメリカ）、仁済大学（韓国）、マレーシア科学大学（マレーシア）の教員も登壇し、国際的な連携を強める機会となった。参加者からは、「協定校としっかりと信頼関係を築き、協働学習を実践されていることに感銘を受けました」、「コロナ禍のオンライン教育について、教育実習、英語と日本語のタンデム、理系留学、様々な方面から考える機会となりました」などの声が聞かれた。



#### ⑤地域連携

##### (1) 阿見町との連携

茨城大学社会連携センター支援事業地域研究・地域連携プロジェクトの支援を受け、阿見町町民活動課と連携し、11月9日に阿見町の国際化と在留外国人に対する支援について話し合う円卓会議を実施した。会議を通して、地域が抱える課題を確認することができた。その課題を解決する方法の一つとして、阿見町国際交流協会が主催する「日本語教育ボランティア養成講座」にグローバル教育センターの教員を講師として派遣した。



##### (2) 水戸東ロータリークラブ・茨城大学ローターアクトクラブとの連携

11月13日に実施した国際交流パーティーでは、水戸東ロータリークラブ及び茨城大学ローターアクトクラブの協力を得て、そばのゆで方、そばの打ち方を紹介する事前ビデオ (<https://youtu.be/YW6Yca073fy>) を作製した。パーティーの参加者は事前にそばやけんちん汁を含む「茨城の味覚セット」を受け取り、事前ビデオを視聴し、自分たちで準備をして、パーティーで一緒に食べた。



## 〔資料：留学生向け日本語教育（単位なし）〕

## 前期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル3（総合）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル3（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル3（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3（漢字）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル3（口頭表現）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル4（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5（総合）	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	青木香代子	水戸	15	15
初級日本語 II	瀬尾匡輝	阿見	30	30
初級日本語 IV	瀬尾匡輝	阿見	15	15
アカデミックジャパニーズ	瀬尾匡輝	阿見	30	30
サバイバル日本語	瀬尾匡輝	阿見	15	15

## 後期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル4（総合）	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル4（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4（口頭表現）	八若寿美子	水戸	15	15
日本語レベル4（応用）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5（総合）	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	青木香代子	水戸	15	15
日本研究	安龍洙	水戸	15	15
初級日本語 III	瀬尾匡輝	阿見	30	30
初級日本語 IV	瀬尾匡輝	阿見	15	15
サバイバル日本語	瀬尾匡輝	阿見	15	15